

倫理 授業 No.5 テーマQ.&A.プリント

1. 今日のテーマ・クエスチョン

ソクラテスの説く問答法とはどういうものか？

2. テーマ・アンサーのキーワードをピックアップ

※教科書P. 30・31の中から見つけよう！

あるとき、ソクラテスの友人がデルフォイのアポロン神殿で、「ソクラテスよりも知恵のある人間はいるか」とたずねたところ、「いない」という神のお告げをもらった。ソクラテスは、神託の意味を明らかにするために、世間で知恵があると評判の人物を訪ね歩いた。やがて、ソクラテスにわかったことは、世間で知恵があるとされている人は、自分でもそう思い、他人からもそう思われているが、実は人間にとっていちばん大切なことは何かを知らない。さらには、知らないのに知っていると思いこみ、知っているふりをしている、ということであった。

こうしてソクラテスは、率直にみずからの無知を自覚し(< 1 >)、それを出発点にして人間にとって何がいちばん大切かを謙虚に問い続ける者こそが、本当の知恵のある人間であると考えた。

ソクラテスは、問いと答えを繰り返す(2)をとおして普遍的な真理を探究した(< 3 >)。彼は問答をとおして、みずからは無知をよそおいながら、相手の考えと矛盾する例をあげて、相手の無知を暴いていった(エイロネイア・皮肉)。そして、相手にみずからの無知を自覚させ、そこから人生についての本当の知恵を求めさせようとした。ソクラテスは、自分にできることは、相手が自分自身で知恵を生み出すことを手助けすることだけだと考え、みずからの問答を助産術・(4)と名づけた。

<キーワード記入欄>

1 () 2 () 3 ()
4 ()

3. 今日のテーマ・アンサー（テーマ・クエスチョンの答）確認

※今日のノートに取った内容や2.でピックアップしたキーワードを参考にしよう。

T. Q. 「ソクラテスの説く問答法とはどういうものか？」

T. A.

問答法とは、他者と[①]することで真理をともに探究する方法である。[①]することで相手に無知を[②]させ、[③]を生み出させることから、[④]術にたとえられている。たえず自分自身を反省し、自らの独断を避けようとする問答法の態度から、現代の言論の自由や民主的な考え方が生まれている。

<記入欄>

① [] ② [] ③ []
④ []

[]年 []H No. [] 氏名 []